

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

舞岡のまちとともに 認め合い 学び合い 自ら成長し 未来を拓く
知 主体的に課題を解決
徳 認め合いと人権の尊重
体 いのちの尊重 健康な心と体
公 地域・社会へ自ら参画
開 視野を広げ、夢の実現

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力

主体的に学ぶ力と課題解決能力
多様な社会の中で共に生きることに必要なコミュニケーション能力
自他を愛しむ自尊感情

具体化した資質・能力

自らの課題を見つけ、振り返り、粘り強く取り組む姿勢
自尊感情の向上と他者理解の深化
社会生活の中での協調性と自己表現
自らコミュニケーションをとろうとする姿勢
自己の健康を管理し、安全に生活する能力

中期取組目標

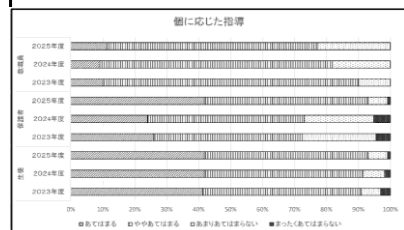
全教職員が力を合わせ、「生徒の未来を守る」ことができる学校づくりを行います。
・学習の基礎基本の確実な定着と、個に応じた指導を充実させ、主体的に学習に取り組む態度を育成します。
・授業や学校行事、自治的活動を通して、生徒の自尊感情を育て、他者理解の心や人権意識を高めます。
・小中9年間を通して、言語活動を中心とした学習によりコミュニケーション力を向上させます。
・健康に関心をもち、自ら生活を改善し、心や体の課題を解決する力を伸ばします。
・家庭・地域と協力して、主体的に地域活動に参加する態度を育成します。

学力向上アクションプラン

Table with 2 columns: 重点取組分野 (個に応じた指導) and 具体的取組 (1. 個に応じた指導の工夫のために、学習計画と評価の理解を進められる校内研修を実施します。 2. ICT機器を効果的に活用し、生徒が主体的に学習に取り組む時間を充実させます。 3. 生徒が自分の学びに責任をもち、自分の意思で学び方を選択できるように、教師が生徒に学びを委ねる時間を充実させ個に応じた指導に活かします。)

学力向上に関わる本校の状況

学校評価アンケートでは、8割以上の生徒が積極性をもって学習に取り組んでいることがわかる。市学状の結果について、学力は全学年において平均と同じ程度の結果である。また、学習意識は、学年によって結果は異なり、平均を大きく上回る学年がある。生活意識は、どの学年においても平均と同じ程度である。今後は主体的に学習に取り組む姿勢を育て、資質・能力の向上につながるような授業づくりを目指している。



今年度の目標

生徒自らが積極的に課題を見つけ、解決に向かう姿勢を育てる。
多角的な視野をもって物事をとらえ、思考・判断・表現できる力を育てる。

目標を実現するための具体的行動プラン

①授業の始まりには「本時の目標」を生徒に提示し、見通しをもった学習を促す。
②授業の終わりには「本時のまとめ」を行い、学びの定着を目指す。
③言語活動を大切に、積極的に授業に参画することで高めあいの場をつくる。
④個に応じた指導の工夫を実践するために、教科会や校内研修で指導方法や評価の仕方を共有して、共通理解を深める。
⑤ICT機器を活用し、生徒一人ひとりが様々な視点から課題と向き合うことができ、主体的に学習に取り組む姿勢をつくる。

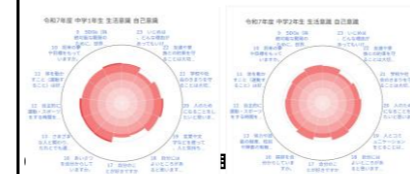
上半期
下半期

豊かな心の育成推進プラン

Table with 2 columns: 重点取組分野 (豊かな心) and 具体的取組 (1. 人権意識の育成のために道徳の授業を充実させ、また、学校の教育活動全体を通じて指導します。 2. 人権講演会や人権標語コンクールを実施して、豊かな心の成長に努めます。 3. 生徒の実態に即した教材を研究、活用し、実生活との関連を重視した取組を充実させていきます。すべての教科等で命・心・夢を大切に道徳・人権に関連した授業を実施します。)

豊かな心に関わる本校の状況

(1)豊かな心に関わる生徒の実態
・何事にも一生懸命に取り組む生徒が多い一方、自己肯定感の低い生徒、または他者とのコミュニケーションに課題を抱えている生徒もいる。
・令和7年度の学習状況調査の結果から、現2年生は、「いじめは理由にかかわらずだめである」、「人のためになることをしたいと思う」という意識が横浜市平均より高い一方、「自分のことが好きである」という質問に対しては横浜市平均より低い結果になっている。
・現3年生の自己意識の結果を、令和6年度、7年度と比較すると「人のためになることをしたいと思う」割合が高くなっていることが見てとれる。ただし、横浜市の平均と比べるとまだ低い。昨年度に比べて割合がさらに低くなっているのは、「自分のことが好きですか」、「将来の夢や希望をもっていますか？」など自己肯定感にかかわる質問となっている。また、コミュニケーションをとることへの苦手意識が高まっている。



また、人権講演会や人権標語コンクールを通じて人権意識を高めてきた。

今年度の目標

授業や学校行事、生徒会などの自治的活動を通じて人権意識を高め、思いやりの心を育てます。校外学習などの体験活動により、生徒の自己肯定感を高めます。

目標を実現するための具体的行動プラン

・道徳の授業を、道徳教育の要として位置づけ、各教科等との密接な関連を図りながら、計画的、発展的な指導によって、これを補充、深化、統合し、一人ひとりが自己の考え、感じ方、行動の仕方を振り返り、道徳的価値及びそれに基づいた人間としての生き方についての自覚を深め、自己の生き方を創造しようとする道徳的実践力を育てる。
・発達段階を考慮した平和の実現に貢献する力を育てる。また、キャリア教育などの体験活動、探究的な学習や教科横断的学習を通して、主体的、創造的、協動的な態度を育て、自己の生き方を考える資質・能力を培う。
・自分を表現し、他者に自分の思いを伝えるコミュニケーションがはかれる活動を多く取り入れるよう工夫する。

上半期
下半期

健やかな体の育成プラン

Table with 2 columns: 重点取組分野 (健やかな体) and 具体的取組 (1. 新体力テストの結果を生徒各自が考察し、体力向上に向けた取り組みを実践する態度を育て、継続させます。 2. 保健体育の授業で、準備運動に体づくりのトレーニングに全員が取り組み、体力の向上を図り、継続させます。 3. 体育大会に向けた昼休みの大縄やリレーの練習を通して、集団行動や運動技能を身に付け、体力の向上を図り、継続させます。 4. 心身の健康の保持増進のため、望ましい生活習慣の確立を指導し、健康・安全に関する教育を継続させます。)

健やかな体に関わる本校の状況

○本校の運動部活動生徒の加入率は比較的高く、ほとんどの生徒は毎日のように活動しており、運動の機会が少ないとは思われない。運動部の活動による体力の向上への効果は最も大きいと考えられる。
○体格的には、身長では1・2年男子は県平均を下回っているが、それ以外は上回っている。体重は、3年生は男女ともに上回っているが、それ以外は下回っており、身長に対して体重が軽い。
○規則正しい生活習慣や学校生活への取組、衛生面などにおいても著しく劣っていると考えられる面は見受けられない。朝食の摂取の割合は、全国平均に比べ、良い傾向にあるが、上級生(特に3年の女子)は、朝食を抜くことがある。8割以上の生徒が毎朝朝食を食べてきているが、残り2割の生徒は朝食を食べない生徒がどの学年でもいるのが現状である。(アンケート結果より)

今年度の目標

生徒自身が自分の体力や健康について目標を定め、保健体育の授業や部活動、体育的行事、日常生活の中で体力向上を図る。

目標を実現するための具体的行動プラン

・年度初めの新体力テストの結果を生徒各自が考察し、体力向上に向けた取り組みを自らの生活の中で実践していく態度を育てる。
・毎時間の授業開始時の準備運動において、体力づくりトレーニングに全員が取り組み、体力の向上を図る。
・体育大会では昼休みを活用した大縄やリレーなどの練習を通して、集団行動や運動技能を身に付け、体力の向上を図る。
・体育委員会において、昼休みにボールの貸し出しを行い、運動に親しむ場をつくる。
・家庭科では食育との連携を図り、心身の健康の保持増進を図る。
・食育推進ネットワーク校として近隣小学校栄養教諭との連携を図り、食育の推進を図る。

上半期
下半期